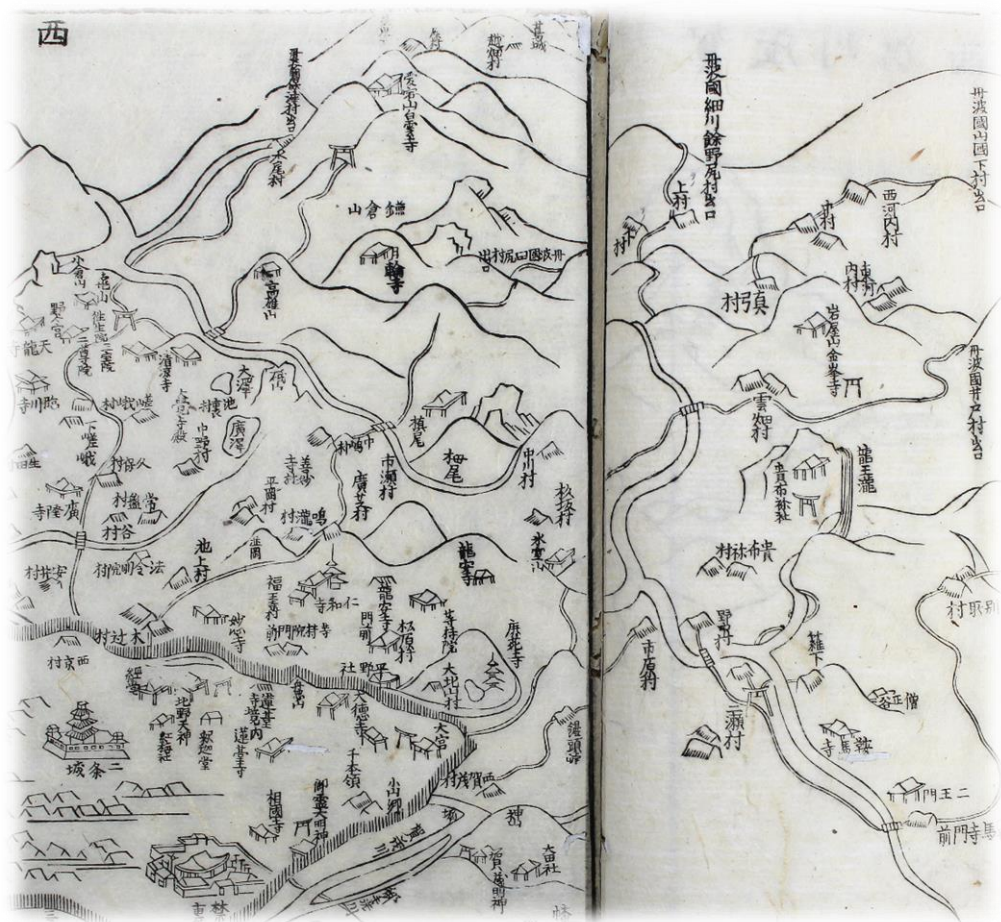


立正大学

古書資料館通信

Vol.9



『雍州府志』

目次

岩瀬志妙寄贈本について (2)	1 頁
寿量院日祐の蔵書 (補足)	1 頁
守玄院日顕の旧蔵書	2 頁
「日宣」の署名	4 頁
おわりに	4 頁
岩瀬志妙寄贈本 簡易リスト②	5 頁
注	7 頁
表紙資料紹介	7 頁

立正大学図書館略史 (品川キャンパス) ——古書資料館前史として 第9回

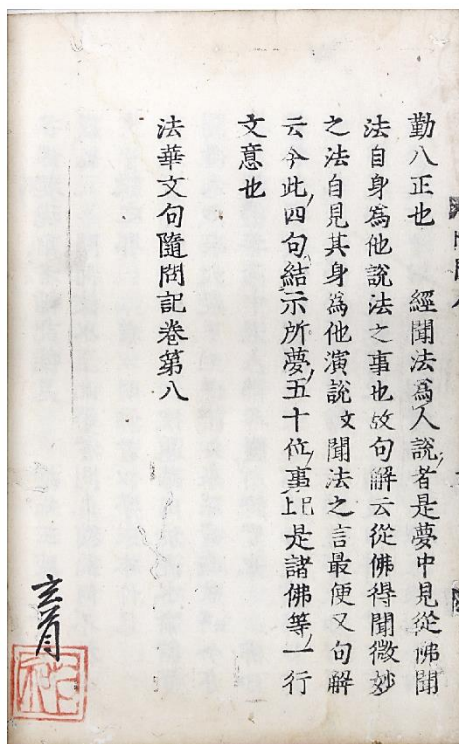
前号に引き続き、今号でも岩瀬志妙寄贈本について述べていきたいと思ひます。なお今号の末尾には、同寄贈本の旧分類 A67 以降と、NDC (日本十進分類法) で登録されたものの簡易リストを掲載しました。

岩瀬志妙寄贈本について (2)

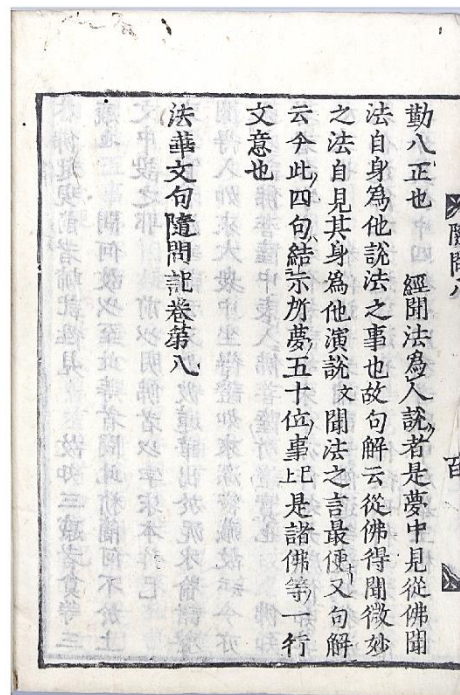
〈寿量院日祐の蔵書 (補足)〉

前号では、「日祐」の印が押された 6 点を、寿量院日祐 (1610~1664) の旧蔵書として紹介しました。その後もう 2 点、同様の印が押された本が見つかりました。1 点目は『占察善悪業報経』2 卷 1 冊 (A71/59) です。この本に見られる「日祐」の印は、前号で紹介した 3 種類の印と字形が少し異なりますが、書体は共通です。2 点目は、日遠の『法華文句随問記』卷 8 (183.3/O-65/8) です。同書は揃いであれば 10 巻ですが、今回紹介するものは巻 8 が 1 冊残るのみです。しかも、1 丁から 4 丁目には虫食いや破れによる大きな欠損が見られ、表紙も、かつて図書館が補修に出した際に補われたもののようです。しかし、末尾にある「玄首」の墨書きと「日祐」の印の部分は欠けずに残っていました。

『法華文句随問記』には、寛永 21 年 (1644) の古活字本の存在が知られていますが、この巻 8 はその古活字本だと考えられます。古書資料館には、同書の明暦 2 年 (1656) 版を所蔵しているのので、比較のために両本の画像を掲載しておきます。



古活字本 (183.3/O-65)



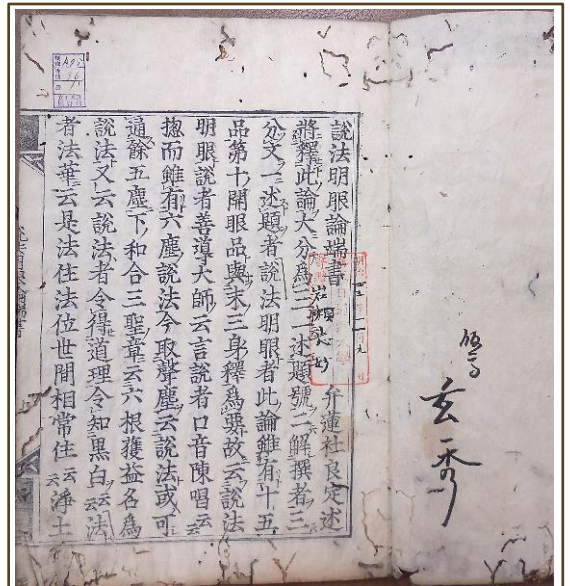
明暦 2 年版 (A11/109)

日祐の旧蔵書の中から、もう一点紹介します。それは、前号で書名のみをあげていた『説法明眼論端書』 (A78/86) です。これは、浄土宗の学僧であった袋中 (良定) の著作です。袋中 (1552~1639) については、本通信の 4 号でふれたことがあります。袋中は、慶長 8 年 (1603) に明に渡ろうとして琉球へ漂着し、慶長 11 年に日本に帰国した人物です。琉球の宗教などについて記した袋中の『琉球神道記』は、没後

の慶安元年(1648)に刊行されました。『説法明眼論端書』の刊年は寛永21年(1644)年です。刊記に書肆名はありませんが、『琉球神道記』と同じく、袋中の没後に刊行されたことが分かります。

『説法明眼論端書』は『説法明眼論』の注釈書です。『説法明眼論』は、聖徳太子に仮託された書ですが、中世には太子の真作として権威を持っていたと言われていました²。また、『平家物語』にて千手前が謡った「一樹の陰に宿りあひ、同じ流れをむすぶも、みな是先世のちぎり」は、『説法明眼論』を元にしたものと考えられています³。

前号の掲載分と合わせ、日祐のものとして推定される蔵書は8点となりました。改めてその書名をあげておきます。『法華秀句』(A12/310)、『文鏡秘府論』(A20/59)、『頓悟入道要門論』(A50/38)、『禅宗永嘉集』(A50/41)、『占察善悪業報経』2巻1冊(A71/59)、『護法論』(A73/121)、『説法明眼論端書』(A78/86)、『法華文句随問記』(183.3/O-65/8)。



A78/86『説法明眼論端書』1丁表

〈守玄院日顛の旧蔵書〉

前号では、「飯高玄秀」の署名をきっかけに考察を行いました。今回は別の書入れに注目したいと思います。それは、『大智度論』(A73/96)の巻第5-6の見返しに見られる「獅子吼日迅／後改守玄院日顛」という書入れです。

日顛(1681~1753)は十歳で常住院日宣のもとで出家し、後に妙玄院日等に師事しました。南谷檀林・飯高檀林で学び、34歳で浅草長遠寺住職、38歳で朗愴寺住職、41歳で南谷檀林化主、46歳で飯高檀林化主を務めています。その後、日等の後任として48歳で両山(比企谷妙本寺・池上本門寺)25世に就任しました⁴。

日顛は字を玄静、号を守玄院といたしました。玄静の字は、師であった日宣のものを継いで12歳(元禄6年<1692>)から名乗りはじめたとされます⁵。出家直後の号と名は修心日良⁶、享保6年(1721)頃は守玄院日静⁷と言ひ⁷、その後に獅子吼院日迅⁸、また塵是院とも号したようです⁸。名と号を改めた正確な時期は不明ですが、獅子吼院日迅から守玄院日顛へと名を改めたことが、『大智度論』の書入れからも裏づけられます。

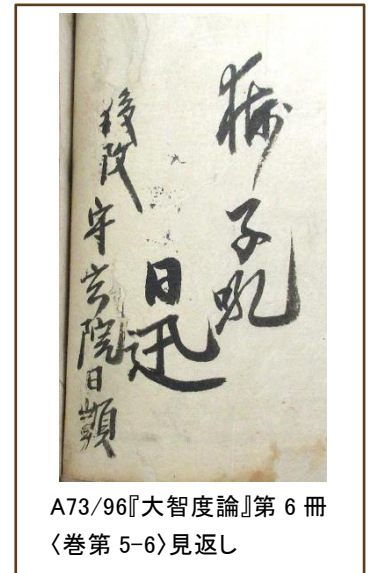
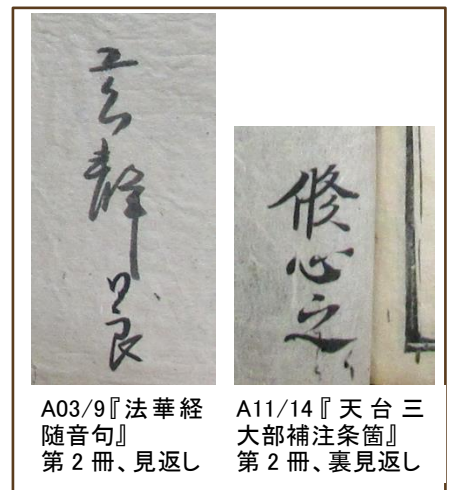
日顛の旧蔵書が、この他にも岩瀬志妙寄贈本の中にあるのではないかと考え、調査を行いました。以下に、その可能性のあるものを①から③の3つに分けて掲載します。

①「修心」「日良」が含まれる書入れのある蔵書 8点

A03/9『法華経随音句』、「玄静」「日良」(第2冊、見返し)。A11/14『天台三大部補注条箇』、「修心之」(裏見返し)。A11/253『金剛経疏』、「修心之」(裏見返し)。A11/264『維摩経略疏』、「修心(之)」(裏見返し)。A12/83『五百問論』、「修心之」(第3冊、裏見返し)。A12/169『四明十義書』、「修心之」(第1冊、裏見返し)。A72/59『科註仏説無量寿経』、「修心」(第1-3冊、見返し)。188.3/V 44『科註妙法蓮華経論』、「修心」(巻3、裏見返し)。

日顛が修心日良を名乗ったことから、その署名を探しました。しかし「修心」もしくは「日良」という別個の書入れしか見つかりませんでした。そのため、日顛の旧蔵書とするには根拠が弱いですが、とりあえず指摘しておきます。

②「獅子吼」「日迅」が含まれる書入れのある蔵書 7点

A73/96『大智度論』第6冊
〈巻第5-6〉見返しA03/9『法華経
随音句』
第2冊、見返しA11/14『天台三
大部補注条箇』
第2冊、裏見返し

A11/111『法華文句随問記』、「本具院日海上人之本ニ予日迅本交合」(第1冊、見返し)。A30/167『於一向専修宗選択集中摧邪輪』、「獅子吼」(第2冊、裏見返し)。A71/12『勝鬘師子吼一乘大方便方広経』、「日迅」(背)、「獅子吼」(巻末)。A71/26『仏説十往生阿弥陀仏国経』、「獅子吼/日迅」(見返し)。A71/50『請觀世音菩薩消伏毒害陀羅尼呪経』、「玄静迅」(見返し、玄静日迅の略か)。A72/11『勝鬘経義疏』、「獅子吼」(各冊、裏見返し)、「獅子吼日迅」「日迅」(各冊、背)。A72/129『法華義疏』、「獅子吼日迅」(背)。A73/96『大智度論』、「獅子吼日迅/後改守玄院日顛」(第6冊〈巻第5-6〉見返し)。

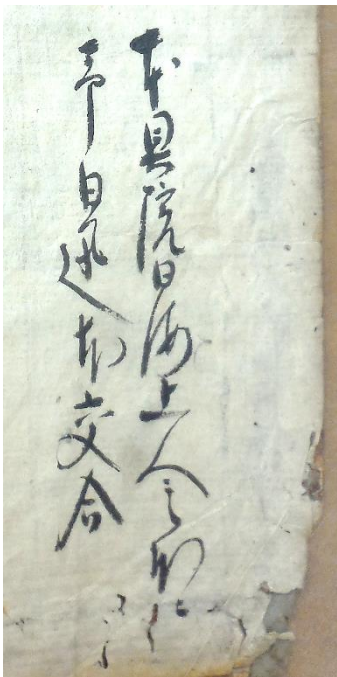
先にもあげたように、『大智度論』(A73/96)の例から、獅子吼日迅は日顛の署名と考えてよいでしょう。『法華文句随問記』(A11/111)には、「本具院日海上人」の所持本を用いて「日迅」が自身の本を校合した、という識語があります。ただし、この本には「忠恕日帯」「行川日立」「日周」などの署名も見られるため、書入れのすべてが日迅のものかは調査が必要でしょう。

③「日顛」「不二庵」が含まれる書入れのある蔵書 6点

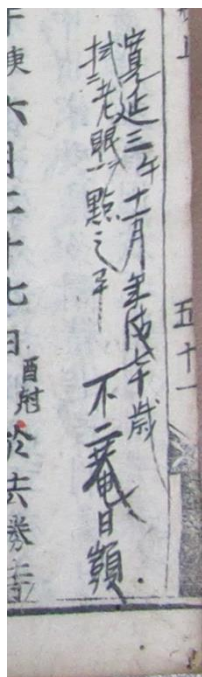
A15/5『顛戒論』、「寛延三午十一月年満七十歳/拭_二老眼_一点之畢 不二庵日顛」(第1冊、51丁裏)、「于時寛延三午十二月寒拭老眼而之点也 不二庵日顛敬白」(第3冊、冊尾)ほか。A50/5『鎮州臨濟恵照禅師語録』、「不二庵」(表紙)。A66/40『四分律蔵大小持戒捷度略釈』、「不二庵」(表紙)。A66/59『南山律宗教観名目』、「不二庵」(見返し)。A71/20『仏説金剛香菩薩大明成就儀軌経』、「師範顛尊師御所持 飯高玄秀」(第2冊、裏見返し)。A71/42『維摩詰所説経』、「師守玄院日顛尊師御所持也/飯高玄秀」(裏見返し)。183.94/Ki22『成唯識論述記』、「共二十 日顛」(各冊、背)。

『顛戒論』(A15/5)に書かれている「不二庵」とは、日顛の庵室の名称です。この本の識語により、70歳の日顛が寛延3年の(1750)11月から12月にかけて、訓点を施したことが分かります。『仏説金剛香菩薩大明成就儀軌経』(A71/20)と『維摩詰所説経』(A71/42)には「日顛」自身の署名はありませんが、後の所有者(「飯高玄秀」)が日顛の所蔵本であったことを記しています。

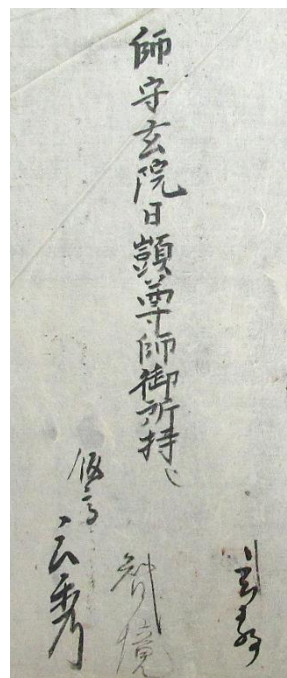
『維摩詰所説経』(A71/42)には、「玄静」「智境」「飯高玄秀」の署名が見られますが、この三名とは別に「日宣」の署名と「玄朝」の印記が各冊の末尾に確認できます。「玄朝」の方は分かりませんが、日宣といえは日顛が最初に師事し、その字の玄静を継いだとされる常住院日宣が思い浮かびます。この「日宣」の署名が常住院日宣のものかはひとまず置いておき、今度は「日宣」の署名が岩瀬志妙寄贈本の中に見られるかどうかを確認したいと思います。



A11/111『法華文句随問記』
第1冊、見返し



A15/5『顛戒論』
第1冊、51丁裏



A71/42『維摩詰所説経』
第1冊、裏見返し



3.3×3.3cm
同左 第1冊、末尾

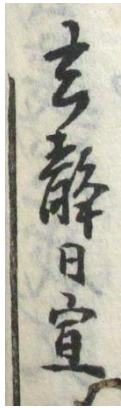
〈「日宣」の署名〉

日宣の署名について調べた結果は以下の通りです。すでに紹介した『維摩詰所説経』(A71/42)の例を除き、画像もあげておきます。

A11/253	金剛経疏	「一雲山勅息 玄静日宣」(巻頭)
A11/264	維摩経略疏	「玄静日宣」(第6冊、末尾)
A12/169	四明十義書	「玄静日宣〔印「玄／朝」〕」(第1冊、末尾)
A12/472	掌中記	「玄静日宣〔印「玄／朝」〕」(巻頭)
A71/17	蘇悉地羯羅経	「玄静日宣」(各冊、末尾)
A71/42	維摩詰所説経	「日宣〔印「玄／朝」〕」(各冊、末尾)
A71/68	金剛峰楼閣一切瑜伽瑜祇経品一	「玄静日宣」(末尾)
A73/96	大智度論	「常住院日宣〔花押〕」(3冊〈巻25-26,27-28,31-32〉を除く各冊、末尾)
188.4/O-65	摩訶止観抄	「玄静日宣」(第2・第7末、末尾)



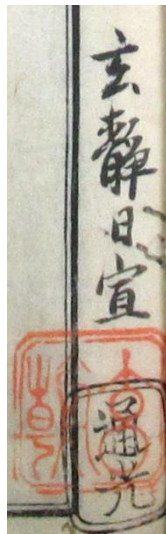
A11/253



A11/264



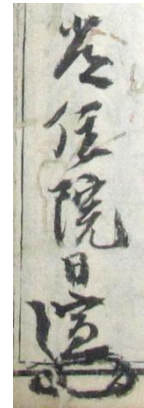
A12/169



A12/472

A71/17
第3冊、末尾

A71/68

A73/96
巻4、末尾188.4/O-65
第2、末尾

まず、注目されるのは『大智度論』(A73/96)に見られる「常住院日宣〔花押〕」の例です。これは、日顛の師であった常住院日宣のものとしてよいでしょう。次に、『四明十義書』(A12/169)や『掌中記』(A12/472)の例によって、「玄朝」の印の持ち主が「玄静日宣」であることが分かります。問題は、ここに掲載した署名が、すべて常住院日宣のものかどうかという点です。筆跡としては近いように思いますが、ここでは判断を保留にしておきたいと思います。ただし、「日宣」の署名が見られる蔵書の中には、先に日顛の旧蔵書について述べた際にあげた本と重なるものがあります。『金剛経疏』(A11/253)、『維摩経略疏』(A11/264)、『四明十義書』(A12/169)には「修心」の署名がありました。この「修心」については、先に日顛のものかどうか明確でないと述べましたが、「玄静日宣」が常住院日宣だとすれば、日顛が修心と名乗っていたところに師より与えられた本だった可能性もでてくるでしょう。

〈おわりに〉

岩瀬志妙寄贈本を前号・今号と2回に別けて見てきました。その蔵書には、多くの署名や書入れがありました。一つの本に対して、複数の署名が見られるということは、その本が多くの人の手を経てきたことを意味します。岩瀬志妙寄贈本の場合、日顛を祖とする不二庵法類の中で、蔵書が受け渡されていった結果、形成された蔵書群だと考えられます。岩瀬志妙寄贈本は大正5年(1916)の火災の影響もあり、一まとまりの蔵書として扱われてきませんでした。ここで述べた署名や書入れの問題は、寄贈本全体を見ないと分かりません。今後は、岩瀬志妙寄贈本も古書資料館の蔵書を構成する文庫の一つと捉える必要があるでしょう。

〈岩瀬志妙寄贈本 簡易リスト②〉

- A71/12 勝鬘師子吼一乘大方便方広経 / (劉宋) 求那跋陀羅訳。無刊記。
- A71/17 蘇悉地羯羅経 3巻3冊 / [(唐) 輸婆迦羅訳]。無刊記。
- A71/18 蘇婆呼童子請問経 3巻3冊 / (唐) 輸波迦羅訳。無刊記。千字文「染」。
- A71/20 仏説金剛香菩薩大明成就儀軌経 3巻1冊 / (宋) 施護訳。金剛薩埵説頻那夜迦天成就儀軌経 4巻1冊 / (宋) 法賢訳。嘉興蔵覆刻加点本、千字文「思三(～六)」。
- A71/21 仏頂尊勝陀羅尼経 1冊 / (唐) 仏陀波利訳。[京]、村上勘兵衛、寛永20年(1643)。
- A71/26 仏説十往生阿弥陀仏国経。仏説阿弥陀仏根本秘密神咒経 / (北魏) 提流支訳。1冊。京、尾勝兵衛春景、江戸、玉置次郎兵衛久信、元禄11年(1698)。
- A71/30 大方等大集経 30巻15冊 / (北涼) 曇無讖訳。知空、延宝3-4年(1675-76)校点。嘉興蔵覆刻加点本。
- A71/31 大乘大方等日蔵経 10巻5冊 / (隋) 那連提耶舎訳。知空、延宝4年(1676)校点。嘉興蔵覆刻加点本。
- A71/34 大方等大集月蔵経 10巻5冊 / (隋) 那連提耶舎訳。[知空、延宝4年(1676)校点]。嘉興蔵覆刻加点本。
- A71/35 優婆塞戒経 7巻4冊 / (北涼) 曇無讖訳。嘉興蔵覆刻加点本、千字文「定一(～七)」。
- A71/42 維摩詰所説経 14巻3冊 / (姚秦) 鳩摩羅什訳、(明) 楊起元評注。[京]、堤六左衛門、正保4年(1647)。
- A71/44 寂調音所問経 / (劉宋) 釈法海訳。嘉興蔵覆刻加点本、原刊記、崇禎2年(1629)、千字文「定八」。
- A71/45 悲華経 10巻5冊 / (北涼) 曇無讖訳。[京]、中野五郎左衛門、万治2年(1659)。
- A71/46 梵網経盧舎那仏説菩薩心地品第十 1冊 / [(後秦) 鳩摩羅什訳]。[京]、長尾平兵衛、寛文5年(1665)。
- A71/47 菩薩善戒経 10巻5冊 / (劉宋) 求那跋摩等訳。無刊記。
- A71/50 請觀世音菩薩消伏毒害陀羅尼呪経 1冊 / (東晋) 竺難提訳。無刊記。
- A71/53 仏説文殊悔過経 1冊 / (西晋) 竺法護訳。嘉興蔵覆刻加点本、原刊記、万曆40年(1612)、千字文「定十」。
- A71/57 梵網経盧舎那仏説菩薩心地法門品第十 1冊 / (後秦) 鳩摩羅什訳。無刊記。
- A71/58 法句譬喩経 4巻2冊 / (西晋) 法炬・法立訳。[京]、中野是誰、明曆3年(1656)。嘉興蔵覆刻加点本、原刊記、崇禎10年(1638)、千字文「亦一(～二)」。
- A71/59 占察善惡業報経 2巻1冊 / (隋) 菩提登訳。無刊記。千字文「悲」。
- A71/63 賢愚因縁経 13巻4冊 / (後魏) 慧覺訳。京、黄檗山宝蔵院、寛文11 - 寛文12年(1671 - 1672)。黄檗版大蔵経、経・千字文「左一(～十)」「達一(～三)」。
- A71/66 大乘造像功德経 2巻1冊 / (唐) 提雲般若等訳。[江戸]、福森兵左衛門、寛文9年(1669)。千字文「悲九」。
- A71/67 大乘造像功德経 2巻1冊 / (唐) 提雲般若等訳。[江戸]、福森兵左衛門、寛文9年(1669)。千字文「悲九」。
- A71/68 金剛峰楼閣一切瑜伽瑜祇経品一 1冊 / (唐) 金剛智訳。江戸、福森兵左衛門[他2肆]、延宝5年(1677)。
- A71/70 大乘三聚懺悔経 1冊 / (隋) 闍那崛多・笈多等訳。嘉興蔵覆刻加点本、原刊記、崇禎2年(1629)、千字文「定九」。
- A72/11 勝鬘経義疏 2冊 / 上宮王(聖徳太子)私集。梅村弥右衛門。
- A72/33 宝篋印陀羅尼経鈔 3巻3冊 / 亮汰述。前川茂右衛門、寛文13年(1673)序。
- A72/37 仁王護国般若波羅蜜多経疏 3巻7冊 / (唐) 良賁述。前川茂右衛門、万治2年(1659)。刊記の「前川茂」部分は入れ木。
- A72/38 仁王護国般若波羅蜜多経疏 3巻7冊 / (唐) 良賁述。松井七郎右衛門、万治2年(1659)。
- A72/48 科註仏説阿弥陀経 1冊。[(京)、中野小左衛門、明曆4年(1658)]。[科註浄土三部経]の内。
- A72/58 科註仏説觀無量寿経 3巻3冊。[京]、中野小左衛門、明曆4年(1658)。[科註浄土三部経]の内。
- A72/59 科註仏説無量寿経 2巻6冊。[(京)、中野小左衛門、明曆4年(1658)]。[科註浄土三部経]の内。
版心の巻次: 上一本・上一末・上二・上三・下一・下二。
- A72/72 首楞嚴経義疏注経 10巻10冊 / (宋) 子璿集。寛永9年(1632)。
- A72/75 首楞嚴経義疏釈要鈔 6巻6冊 / (宋) 懷遠録。[京]、村上勘兵衛、寛文13年(1673)。
- A72/80 [異本開題] 2巻(存1巻) / [空海著]。京、八尾市三郎、宝永3年(1706)。
- A72/84 思益梵天所問経簡註 4巻4冊 / (姚秦) 鳩摩羅什訳、(明) 円澄註、(明) 黄輝、(明) 陶望齡校、(明) 傅新徳訂正。原刊記、万曆32年(1604)。

- A72/107 般若波羅蜜多心經註解 1冊。中野市右衛門、寛永15年(1638)。
- A72/129 法華義疏 4巻4冊 / 上宮王(聖徳太子)私集。文台屋治郎兵衛、天和2年(1682)。
- A73/31 大乘起信論 1冊 / 馬鳴菩薩造。京、中村五兵衛。
- A73/38 起信論疏筆削記 6巻合3冊 / (宋)子璿録。京、村上平楽寺、寛永17年(1640)。
- A73/72 大乘起信論別記 1冊 / (唐)法蔵撰。[京]、中村五兵衛、正保2年(1645)。
- A73/86** 十二門論 1冊 / (姚秦)鳩摩羅什詔。中野五郎左衛門、寛文4年(1664)。A73/91, 104と合刻。小口書「三論之七」。
- A73/91** 中論 4巻4冊 / 龍樹菩薩造、梵志青目訳、(姚秦)鳩摩羅什訳。[中野五郎左衛門、寛文4年(1664)]。A73/86, 104と合刻。小口書「三論之一(〜四)」。
- A73/93 大智度論要義條目集 3巻3冊。無刊記。別寄贈の大智度論100巻50冊と一緒に登録。
- A73/96** 大智度論要義條目集 3巻3冊。無刊記。大智度論100巻50冊と一緒に登録。
- 同** 大智度論 100巻50冊 / (姚秦)鳩摩羅什訳。京、松葉屋市兵衛尉、承応2年(1653)。巻25-26, 27-28, 31-3の3冊は取り合わせ。原刊記、万暦19年(1591)。千字文「聖」「徳」「建」「名」「立」「形一(〜十)」「端一(〜十)」「表一(〜十)」「正一(〜十)」「空一(〜十)」。
- A73/101** 大智度論類聚標目録 3巻3冊。京、村上勘兵衛、貞享4年(1687)。
- A73/104 法華論 1冊 / 婆藪槃豆菩薩造、菩提流支訳。正保3年(1646)。
- A73/108** 百論 2巻2冊 / 提婆菩薩造、(姚秦)鳩摩羅什訳。[中野五郎左衛門、寛文4年(1664)]。A73/86, 91と合刻。小口書「三論之五(〜六)」。
- A73/121 護法論 1冊 / (宋)張商英述。京、村上勘兵衛、寛永11年(1634)。
- A76/10 南海寄帰内法伝 4巻2冊 / (唐)義浄撰。嘉興蔵覆刻加点本、千字文「尹七(〜十)」。
- A76/19** 集神州塔寺三宝感通録 3巻2冊 / (唐)釈道宣撰。嘉興蔵覆刻加点本、千字文「富七(〜十)」。
- A78/86** 説法明眼論端書 1冊 / 良定述。寛永21年(1644)。
- A78/87 薬師三昧行法 1冊 / (明)受登集。長谷川市良兵衛、浅野久兵衛、正徳元年(1711)。
- A79/3 一代経律論釈法数総目録 2巻2冊。総目録のみ存、刊年不明。
- A79/35 類雑集 10巻10冊。石黒庄大夫、慶安4年(1651)。
- D0/52 本迹問答用意抄 2巻1冊 / 日輝談。日睿、[江戸中期写]。元和9年(1623)の本奥書あり。
- 183.3/O-65** 法華文句随問記 10巻(存1巻)1冊 / 日遠記。[(京)、宗継、寛永21年(1644)]。古活字本。存巻第8。
- 183.3/V 44 科註妙法蓮華経論 6巻(存4巻)4冊 / 婆藪槃豆菩提造; (後魏)菩提流支、(後魏)曇林等訳。[京]、八尾甚四郎友春(他3書肆)、寛文9年(1669)。刊記入れ木。
- 183.94/Ki22** 成唯識論述記 20巻(存14巻) / (唐)基(窺基)撰。[(京)、敦賀屋久兵衛、明暦元年(1655)] (A63/37参照)。巻数は版心による。
- 188.4/O-65** 摩訶止観抄 10巻(存: 第2-3, 第5下, 第7-10)10冊 / 日遠記。無刊記。題簽題「止観随聞記」(巻第8末のみ)。
- N5/H 82 法華肝心要文集 6巻(存2巻)1冊。[京、栗山宇兵衛、元禄13年(1700)] (A03/117参照)。版心題「六條要文」。
- N19/Ko74** 紫竹書翰往復 1冊 / 光念精舎旅客講者、鷹峯蓮宗学達[著]。宝永6年(1709)跋。江戸、和泉屋市兵衛。
- *基本的に旧漢字・異体字は通行の字体へと変更。特に記載のないものはすべて袋綴の整版本。別の寄贈本と取り合わせられている場合、岩瀬寄贈本の存巻を記載。旧分類番号に下線のあるものは「玄秀」の書入れのあるもの。
- *「嘉興蔵覆刻加点」の記載については、野沢佳美「江戸時代における明版嘉興蔵輸入の影響について」(『東洋史論集』13、2001)50,51頁のリスト、「東京大学総合図書館万暦版大蔵経(嘉興蔵)デジタル版」(https://dzkings.l.u-tokyo.ac.jp/kkz/#)を参照。
- *簡易リストの作成には、①②ともに「全国漢籍データベース」(http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/kanseki)、「日本古典籍総合目録データベース」(http://base1.nijl.ac.jp/~tkoten/index.html)を参照。

注

1. 川瀬一馬『増補古活字版の研究』下 (Antiquarian Booksellers Association of Japan、1967)、256 頁。
岡雅彦 [他]『江戸時代初期出版年表』(勉誠出版、2011 年)、前付 26 頁。
2. 鈴木英之「了譽聖罔と聖徳太子信仰—『説法明眼論』の受容をめぐって」(『印度学仏教学研究』55 卷 1 号、2006 年 12 月)、201 頁。
3. 市古貞次校注・訳『平家物語』2 (小学館、1994 年)、292-3 頁。
4. 池上本門寺靈宝殿編『守玄院日顛聖人』(池上本門寺靈宝殿、2017 年) 参照。
5. 同上、40 頁。
6. 同上、「日宣聖人筆 大曼荼羅本尊」解説、33 頁。
7. 同上、「日等聖人筆 一遍首題」解説、33 頁。
8. 田中存要編『日顛上人伝』(田中存要、1902 年)、1 頁。

立正大学古書資料館専門員 小此木敏明



表紙資料紹介

ようしゅうふし 10 卷 10 冊 / 黒川道祐 [著] A96/40

貞享 3 年 (1686) [刊]。

山城国の地誌。郡名門、神社門上・下、寺院門上・下、土産門上・下、古跡門上・下、陵墓門から成る。第一冊の目録の後に、山城国の図を掲載する。表紙の画像はその図の一部。刊記には「貞享三年丙寅年九月吉日／書林」とあり、書肆名は削られている。貞松山蓮永寺旧蔵書。



立正大学古書資料館通信

第 9 号

令和元年 12 月 27 日発行

編集・発行 立正大学図書館 品川学術情報課

〒141-8602 東京都品川区大崎 4-2-16

TEL : 03-3492-6615

HP : <http://www.ris.ac.jp/library/>